

<研究名称>

旭川赤十字病院の心不全入院患者におけるsimpleGDMTスコアの変化と薬物治療最適化の現状

<実施責任者及び実施担当者>

実施責任者 薬剤部 部長 近藤 智幸

実施担当者 薬剤部 薬剤師 武田 知佳

<研究期間>

倫理委員会承認日～2026年6月30日まで

<診療・研究の目的>

HFrEF（左室駆出率が40%未満に低下したタイプの心不全）に対しては、RAS（レニン-アンジオテンシン-アルドステロン系）阻害薬、 β 遮断薬、MRA（ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬）、SGLT2阻害薬からなるガイドラインに基づく薬物治療（GDMT）が予後改善に有効とされている。一方、実臨床では、低血圧や腎機能障害、徐脈、フレイル等の影響により、GDMTが十分に導入・最適化されていない症例も少なくない。急性非代償性心不全での入院は、GDMT導入・強化の重要な機会であるが、その導入状況や改善度を定量的に評価した報告は限られている。

今回、当院にて入院加療を行ったHFrEF患者におけるGDMT（guideline-directed medical therapy）の導入状況の評価し、臨床現場における薬物治療の臨床的課題を明らかにすることを目的とした。また、本研究に対する不参加の意思表示は可能であり、研究の不参加によって診療上で一切の不利益は生じない。

<実施内容（方法）>

2024年3月から2025年4月までに当院循環器内科にて入院加療を行ったHFrEF患者100例を対象とした。入院時および退院時のGDMTスコアを算出し、心不全既往の有無により初回群（n=51）と既往群（n=49）に分類、各群におけるデータ解析を行った。さらに退院時までの改善度についても比較を行った。統計はt検定、改善度にはCohen's dを用い、有意水準はp値が0.05未満とした。

<危険性（副作用）等>

特になし

<倫理上問題になると考えられる事項>

本研究は入院加療における臨床データを用いた後ろ向き研究であり、介入調査ではない。特に患者への侵襲的な負担は発生しない。個人情報の保護のためにデータ解析時には 個々の氏名や患者IDを使用せずに匿名化して解析を行う

<問い合わせ先>

当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ
〒070-8530

旭川市曙1条1丁目1番1号

旭川赤十字病院 薬剤部 武田 知佳

TEL : 0166-22-8111、FAX : 0166-24-4648